



# OUIK Newsletter

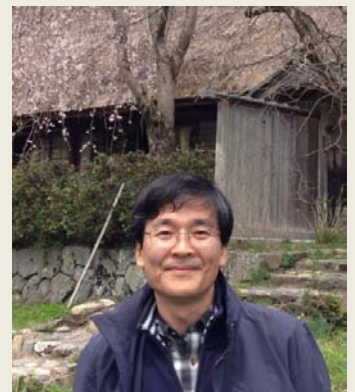
Vol.3 No.4-vol.4 No.1 合併号  
2015年8月1日発行

## 生物文化多様性特集号

国連大学サステナビリティ高等研究所  
いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット  
(UNU-IAS OUIK)  
所長 渡辺綱男

### はじめに

OUIK では、これまで1) 持続可能な農業、2) 都市と生物多様性、3) 里山里海、という3つの視点から研究を行ってきました。「持続可能な農業」プロジェクトでは主に能登の世界農業遺産認定による地域振興、生物多様性保全への貢献の検証、他の GIAHS 自治体や国際的な研究ネットワークの構築を行ってきました。「都市と生物多様性」プロジェクトでは、金沢市の生物多様性保全の議論を通じて、都市部の生物多様性保全と都市と農村のつながりに注目し地域づくりのモデルを研究してきました。「里山里海」プロジェクトでは、石川全域の里山里海資源の評価を行い、地図情報という形で成果をまとめてきました。



「都市と生物多様性」プロジェクトでは、消費地としての都市と原料の供給地としての農村という関係を超えて、ここ数年国際的に議論され始めた「生物文化多様性」という概念を石川県全域の里山里海資源と金沢市の文化資源の関係に適用できないだろうか、という視点が生まれました。また、石川県には世界農業遺産（能登9市町）、ユネスコエコパーク（白山市）、ユネスコ創造都市ネットワーク（金沢市）、ラムサール条約登録湿地（片野鴨池・加賀市）、ユネスコ無形文化遺産（あえのこと）など国際的な認定を受けた豊かな自然と文化を育む地域があります。これらの地域が地域づくりに国際認証制度を活かし、各地域間の連携や相乗効果を生み出すための政策の必要性が生じています。これらを受けて OUIK では2015年1月から、生物文化多様性と国際認証制度の双方の視点を活かした各プロジェクトを展開してきました。本号では生物文化多様性アプローチ特集号として OUIK の2015年上半期の活動を報告いたします。

### OUIK の活動目的

1. 持続可能な社会づくりを目指し、地域のパートナーと協働しつつ、国際社会が取り組む研究活動に対し地域レベルの視点から貢献していく。
2. 国際動向に関する最新情報を共有しつつ、普及啓発・人材育成活動を通じ、地域の多様な関係者との対話を進めネットワークを構築していく。

ユネスコと生物多様性条約事務局の共同運営により開始された生物文化多様性ジョイントプログラムのユネスコ側担当者のアナ・パーシック氏をお呼びして生物多様性と文化多様性に関する国際的なトレンドを紹介いただくとともに、石川県内の国際認証を受けた自治体担当者を交えて、国際的なネットワークを活かすための政策を議論しました。世界農業遺産能登の里山里海推進協議会事務局を努める羽咋市農林水産課から清水 吉朗氏、白山市参事兼観光文化部ジオパーク推進室から山口 隆氏（現白山市観光部長）、金沢市環境局から針野 衛氏が、それぞれ国際認証を受けた地域資源を紹介するとともに、国際認証を受けた地域としての管理やネットワーキングなどの課題を



基調講演を行うアナ・パーシック氏

発表しました。また 田中 俊徳氏（東京大学）は、自然保護制度の歴史的変遷について紹介、これまで欧



米で中心となってきた自然保護のあり方に、自然と共生するアプローチが取り込まれつつあることが紹介されました。続くパネルディスカッションでは、都市と生物多様性プロジェクトリーダーの敷田麻実氏（北海道大学）も加わり、生物文化多様性に関連する国際認証をどのように活かすかというテーマ

で議論が展開しました。現在、様々な国際機関による国際認証が存在する中で、国際認証制度が地域での対話や取り組みの「プラットフォーム」の役割を担うことが重要であると確認されました。そして生物多様性保全のプラットフォーム機能を国際機関である OUIK が担うことで、石川県内の自治体間の対話を促進し、国際的な発信も強化してゆけるのではないかとご提案いただきました。

### 島嶼と里山の生物文化多様性イニシアティブ 2015.03.01 金沢市

地域の生物文化資源に対する理解を深めるには、里山、里海、半島、山地、あるいは都市といった地理的な区分に基づいた国内外の事例を比較し、課題や強みを抽出することも有用なアプローチと言えます。本セミナーでは、「島」と「里山」をキーワードに議論が行なわれました。国際ネットワーク「島嶼生物文化多様性イニシアティブ」を先導する HONG Sun-Kee 木浦国立大学島



嶼文化研究所 教授に同イニシアティブが韓国の済州島で 2012 年に開催された IUCN（国際自然保護連合）の World Conservation Congress で発足したことが紹介されました。KIM Jae-Eun 同研究所研究教授からは、韓国全羅南道新安郡の多島海を事例に本土と島をつなぐ「橋」が島嶼文化に与える影響などについて説明がなされました。シンポジウムの翌日にお二人は能登島を視察し、半農半漁の生活スタイルや定置網漁業、神社での神事などの島文化に触れました。

### 「能登の里海」公開セミナー2015.03.23 金沢市

OUIK では、2015 年度から「里海ムーブメント」と銘打って、世界農業遺産「能登の里山里海」の中でもこれまであまり注目されてこなかった里海に焦点をあてた取組みを進めています。そのキックオフイベントとして、県内外の里海の専門家、漁業関係者などをお招きし、里海について知る公開セミナーを開催しました。



「里海」のコンセプトを最初に提唱した柳 哲雄氏（九州大学名誉教授）による基調講演では、里海の生態系の豊かさと生産性との関係については里山ほど研究が蓄積されておらず、さらに多くの研究を積み重ねることが必要で、その成果を国際会議や国際学術誌等で発信することが不可欠だと述べられました。

続くパネル討論では、武内和彦国連大学上級副学長がモデレーターを務め、岩本泰明氏（石川県水産課長）が石川県の漁業の現状と多様な伝統漁法について紹介した後、石川県漁業士会長で自らも定置網漁を行う木戸信裕氏は「若者が若者を呼ぶ」として、若い世代にとって漁業が魅力的な職業であるためには彼らに主導権を与えるべきだと意見を述べました。木村功商店代表でカキ養殖を営む木村功氏は七尾湾に注ぎ込む栄養豊富で清浄な河川水がカキのよく育つ要因として挙げ、森の保全と上流域と下流域の連携が重要だと説明しました。七尾湾活動実行委員会委員兼能登島ダイビングリゾート代表の須原水紀氏は、ダイビングを通して地元の漁船を点検する手伝いや研究者の水中調査への協力等地域の漁業と里海の保全へ貢献ができると話し、石川県立大学教授榎本俊樹氏は能登の海産物を利用した醗酵食文化から能登の里海の豊かさについて報告しました。



この公開セミナーでは、能登の海洋資源や里海文化全般について議論しましたが、OUIKでは能登の各自治体と共催する形でその地域特有の里海について学ぶ里海講座シリーズを全 4 回開催します。皆様とともに地域の里海を知る機会にするとともに、能登の里海を広く発信してゆくことを目指しています。（イベント

ト詳細はIASウェブサイトに掲載されています <http://ias.unu.edu/jp/news/news/unu-ias-seminar-reaffirms-role-of-satoumi-in-biodiversity-conservation-and-economic-production.html>)

## 能登 GIAHS アクションプラン改定ワークショップに参加 2015.04.20-21 羽咋市

能登の里山里海が2011年に世界農業遺産に認定され4年が経過、能登 GIAHS 推進協議会では、当初策定されたアクションプランの達成を検証するとともに、現在の状況にあわせた数値目標も盛り込んだアクションプランの改定を行っています。

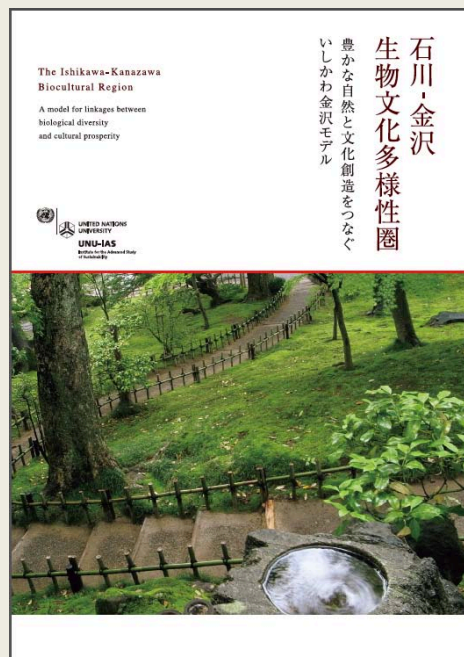


能登 GIAHS 推進協議会は能登の9市町からなる連合体のため、担当者全員が長時間膝を突合せ、議論を重ねることはなかなか難しいのが現状です。そのため事務局を勤める羽咋市さんのご発案でアクションプラン改定ワークショップを合宿形式で行うことになりました。9市町からの担当者はもちろんのこと、石川県里山振興室、金沢大学能登学舎、国連大学 OUIK のメンバーも加わり、いかに持続可能な生業を創るか、能登の生物多様性、文化多様性をどうしたら守ってゆけるか、農業遺産システムの持続可能性をどのように評価するのか、どんな数値目標を使うのか、能登の里山里海の価値をわかりやすく発信するには、など本質的な議題についてグループワークを行いました。これら議論の結果はアクションプラン改定版に反映されることになっています。

## 国際シンポジウム 「石川－金沢生物文化多様性圏」－豊かな自然と文化創造をつなぐ いしかわ－金沢モデル 2015.05.28 金沢市

金沢市が日本の都市としては初めて招致する「ユネスコ創造都市ネットワーク金沢2015」の開催にあわせて、OUIKでは生物文化多様性に関する国際シンポジウムを開催しました。このイベントは、これまでのOUIKの研究活動の成果を皆様に報告するとともに、これからの研究活動の方向性を示すという意味で上半期の目玉イベントでした。石川県、金沢市、そして「都市と生物多様性」プロジェクトに関わってくださった研究者の皆様とともに一年前からシンポジウム実行委員会を立ち上げ準備してきました。

都市と生物多様性プロジェクトでは約3年間に渡って金沢市の生物多様性保全を議論してきましたが、金沢の食文化や伝統工芸が発達



した背景には、気候風土という従前の条件以外にもそれらを原料供給や季節労働力として支えた周辺の里山里海とのつながりが不可欠であり、さらに地域の伝統文化に息づく豊かな精神性は周辺の里山里海の自然とも深く関わっているのではないかと、そして伝統文化それ自体が自然と共生するために進化してきた側面があり、地域の伝統文化の保全と自然の保全は表裏一体に進められるのではないかと、という結論になりました。

この文化と自然の相互作用は、国際的には1988年にブラジルのベレンで行われたInternational Congress of Ethnobiology における宣言文に使われたのを初出として、その後2000年ごろから「生物文化多様性」というキーワードが主に先住民の権利や生物多様性保全と地域コミュニティなどの文脈で頻繁に使われるようになりました。2010年にはユネスコと生物多様性条約事務局が共同で「生物多様性と文化多様性のつながり」プログラムを発足させ、二つの多様性の相互作用を明らかにし、地域の文化と自然の包括的な保全を政策策定過程に反映させるための取り組みが始まりました。OUIKではこの国際的枠組みの中で、金沢市の文化と能登や白山地域の自然資源との関係を議論し、従来の消費地と供給地という関係性をこえ、都市と里山里海がともに持続可能な形でつながり発展してゆけるような「いしかわ金沢モデル」を模索したいと考えました。



シンポジウムでは、武内国連大学上級副学長による開会挨拶の後、ユネスコ担当者アナ・パーシック氏、生物多様性条約事務局担当者ジョン・スコット氏に国際的な動きを紹介いただいた後に、マオロ・アニョレッティ氏よりイタリアの事例を紹介いただきました。そして金沢市の取り組みや金沢市の食文化、里山里海

地域での住民の健康に関する報告など地域からの事例報告の後、これらを踏まえて、都市と生物多様性プロジェクトリーダーの敷田麻実氏より「いしかわ金沢モデル」の概要につき発表いただきました。続くパネルディスカッションでは石川県の担当者にも加わっていただき、「いしかわ金沢モデル」をどのように実施し、世界に発信することができるか、を議論し、文化と自然を包括的に保全するためには異なったセクターの関係者が議論できる政策プラットフォームが必要であることが指摘されました。議論のとりまとめとして渡辺OUIK 所長より金沢メッセージが読み上げられ、参加者から拍手によって賛同をいただきました。（このイベント詳細はIASウェブサイトに掲載されています。またシンポジウム要旨集も同サイトよりダウンロードしていただけます。[http://ias.unu.edu/jp/news/news/kanazawa-model.html?utm\\_source=home&utm\\_medium=top-banner&utm\\_campaign=kanazawa-model](http://ias.unu.edu/jp/news/news/kanazawa-model.html?utm_source=home&utm_medium=top-banner&utm_campaign=kanazawa-model))

## OUIK ニューストピック (2015年1月ー6月)

### JICA 研修「タイ水関連情報総合システムの強化」にて講義 (2015.01.11)

タイの水文、気象、電子工学を専門とする大学研究者や政府機関職員を対象とする研修が東京大学生産技術研究所沖研究室により行われ、「金沢兼六園の水と生態系サービス」について飯田研究員より講義を行い、兼六園にてミニフィールドワークを行いました。地形を利用した用水と山地との関係、自然を生かした庭園が江戸時代に造られたこと、コケ庭など高い文化的価値が現在も維持されていることに対し、参加者からは水資源の文化的サービスを実際に体験することができたという評価をいただきました。



兼六園の景観を説明する飯田研究員 (左)

### 「イフガオ里山マイスター養成プログラム創設一周年記念」国際ワークショップにて講演 (2015.02.14)



金沢大学能登学舎と JICA がフィリピンイフガオ棚田ですすめる里山マイスター養成プロジェクトの一周年を記念して開催されたワークショップで、ユー研究員が「GIAHS の理念と実践：イフガオ棚田と能登の里山里海」として講義を行いました。同じ GIAHS サイトの課題、活動を共有し、フィリピンからの参加者との学びあいの場となりました。

### 「能登里山里海研究部門」設置記念ワークショップにて講演 (2015.02.14)

金沢大学が珠洲市の協力を得て設置した能登里山里海研究部門設置記念ワークショップにおいて渡辺 OUIK 所長より、今後の OUIK と能登学舎との共同プロジェクトの実施や人材交流、さらにそこから金沢大学と国連大学が連携して地域のグローバル教育のコアとなる案について発表させていただきました。



### 中部気候

変動セミナー in 石川 気候変動と私たちの暮らし～温暖化への適応～にて講演 (2015.03.12) 飯田研究員が「石川の里山里海と気候の変化」について発表、石川県内にある既存の生物モニタリングデータの活かし方について政策提言させていただきました。会場は農業関係の方、事業者の方

など 120 人を超える方が参加されました。気候の変化は私達の日々の生活や経済と直結しているテーマだけに参加者は発表スライドを撮影し熱心に耳を傾けていました。

### 金沢大学環境技術国際コース環境技術地域研修にて能登フィールド実習（2015.04.02）



金沢大学が実施する上記研修に、飯田研究員が「能登半島の里山里海一能登町布浦地区をフィールドに一」と題して、講義ならびに、実際に沿岸を歩きながら漁村や魚付き林の様子、集落の上位面にある農業地帯を見学するフィールド実習を実施しました。この研修は日本人と留学生を対象とした修士課程のプログラムの一環で、地域社会と調和した環境対策技術と応用について学ぶことを目的としています。

### 白山手取川ジオパーク推進協議会に入会（2015.04.22）

白山手取川ジオパーク推進協議会は世界ジオパークネットワークへの加盟を目指しています。ジオパークがユネスコの正式プログラムとなることを見据え、OUIK はネットワーキングや広報の側面から支援していくために同協議会に入会しました。4 月 22 日に開催された定期総会にて、渡辺所長の代理として永井事務局長から入会の挨拶をさせていただきました。

### 白山ユネスコエコパーク協議会参与に就任、山田白山市長を表敬（2015.05.12）

白山市はユネスコエコパーク（英語名：UNESCO Man and the Biosphere programme / Biosphere Reserve）の登録を受けた地域でもあります。白山手取川ジオパーク推進協議会事務局とユネスコエコパーク事務局を兼務しており、世界的にも珍しいケースのようです。エコパークは対象地域が白山地域を構成する 4 県 7 市村にひろがっており、これらの自治体を中心となって 2014 年 1 月に協議会が発足しました。OUIK は 2014 年 8 月から協議会の参与として正式に就任し、エコパーク認定地域の計画見直しや承認プロセスについての情報収集や啓発普及支援などの活動を行なっています。



山田白山市長（左）と懇談する渡辺 OUIK 所長（右）

2015 年 5 月 12 日の第 3 回協議会の開催にあわせて、協議会会長である山田白山市長に渡辺 OUIK 所長よりご挨拶させていただきました。ご自身も白山麓の出身である市長からは、白山の自然と文化について貴重なお話をたくさん伺うことができました。

### 金沢大学第 10 回角間里山ゼミにて講義（2015.06.12）

金沢大学角間キャンパスで行われている角間里山ゼミにおいて、「国連と草の根をつなぐ」という題名で永井事務局長が講義を行いました。生物多様性をめぐる国際的な動きの中での石川の取り組みのもつ意義や、持続可能な開発目標（SDGs）をめぐる国際的な議論を紹介させていただくとともに、石川から地域の声や取り組み

を発信してゆくため OUIK が進めている生物文化多様性プラットフォームにさまざまな方が参加できるしくみづくりを提案させていただきました。

## 第2回東アジア農業遺産学会に参加 (2015.06.23-25)

日中韓の世界農業遺産認定地域を研究する研究者や自治体関係者が佐渡で開催された第2回東アジア農業遺産学会に集まりました。ユ-研究員からは、「日本における独創的な農文化システム」を研究発表し、また、限界集落地域のおかれた状況についても、永田明国連大学シニアプログラムコーディネーターから日中韓の比較結果を発表しました。(詳細は IAS ウェブサイトに掲載されています <http://ias.unu.edu/jp/news/news/erahs2015.html>)



### イベント告知

**2015年10月3日(土) : SDGs 高校生ワークショップ** : 新しい国際開発目標である「持続可能な開発目標」が9月に国連サミットで承認されるのを受けて、石川から高校生の声を拾います。(イベントはクローズドです)

**2015年11月12日(木) : SDGs シンポジウム「持続可能な開発のための人材育成」**

### 新スタッフ紹介



#### 有田 紀恵 (ありた のりえ)

大学生のときに環境問題の深刻さを知り、大学院において組織(主に企業)が与える環境負荷をどのように低減していくことができるかということに主眼をおいた研究を行いました。4年ほど、会計事務所の一部門において ISO14001 のアドバイザー業務 (ISO14001 のマニュアル作成に関わる支援等) に従事した後、およそ8年間国際税務に従事いたしました。長い間、環境について考える機会が少なかったのですが、今後 OUIK の活動を通じて勉強していくとともに、運営の側面から OUIK の活動に関わっていきたいと感じております。どうぞ宜しくお願いいたします。

発行 : 2015年8月1日

国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット (UNU-IAS OUIK)  
〒920-0962 石川県金沢市広坂 2-1-1 石川県政記念しいのき迎賓館 3階

Tel : 076-224-2266 Fax : 076-224-2271

Email: [unu-iasouik@unu.edu](mailto:unu-iasouik@unu.edu)

<http://ias.unu.edu>

Facebook ページ開設! <https://www.facebook.com/OUIK.UNU.IAS>